

近畿病院図書室協議会

第 18 回 総 会 報 告

近畿病院図書室協議会第18回総会は、1992年3月23日(月)午後、淀川キリスト教病院本館5階講義室において開催された。当日の出席者は30機関、委任状提出機関は21機関であった。

白方誠彌会長の挨拶の後、議長に浜口恵子氏(高槻赤十字病院)、副議長に中嶋和子氏(西宮市立中央病院)、書記に花北まゆみ氏(姫路赤十字病院)を選出し、次いで議案審議に入った。提出議案は7題で、それぞれ満場一致で可決された。

会長、事務局長は、役員会で選出された現白方誠彌会長、現小田中徹也事務局長がそれぞれ承認された。また、役員改選が行われ、幹事9名、会計監査2名が選出された。

なお、総会に先だって、国立京都病院精神科波多野和夫先生による特別講演「失語症一言葉を失うとは何か」が行われた。

議案日程

- 議案Ⅰ 平成3年度活動報告
- 議案Ⅱ 平成3年度会計報告・監査報告
- 議案Ⅲ 平成4年度活動方針
- 議案Ⅳ 平成4年度事業計画
- 議案Ⅴ 平成4年度予算
- 議案Ⅵ 役員改選
- 議案Ⅶ 会長・事務局長承認

議案Ⅰ 平成3年度活動報告

はじめに

今年度は一昨年から取組んでいる医学雑誌総合目録の改訂版発行と東海地区との協力拡大を活動の主眼とした。また、継続事業では会報と会誌『病院図書室』の編集形態の再検討、研修会の企画では初心者向けに内容の幅を広げた。また各事業の運営にあたっては一般会員の協力が定着し東海地区会員の参加が新たに加わった。

まず、総合目録の改訂作業では編集方針を「個別誌名記入方式」に変更したこともあり、編集委員の努力にも拘らず煩雑なデータ点検と修正作業に予想以上の時間を要している。従ってこの作業過程で開始する予定であった分担保存の作業には入ることが出来なかった。今後の計画としては、データ入力パソコン上で処理しこの後に分担保

存のデータを収集して、予定では来年度早々の発行を目指している。改訂版の早期発行と分担保存の実現化を待たれている会員各位には理解と協力を得たい。

東海地区との協力拡大では、今年度3機関からの入会があり、現在7機関の会員を数えている。8月には当地区会員が名古屋市で連絡会を開き協力活動の在り方や秋の第3回名古屋研修会について話合った。ネットワークとしての有効性を発揮するには今より以上の会員拡大が必要であることを確認した。そのためにはまず当地区の会員が活動の中心となり、協議会が支援していく形で進めていくことになった。来年度は協議会としても当地区の意向を考慮しながら積極的な拡大活動を進めることが必要と思われる。

次に、協議会の発足以来続けてきた会報と会誌の現在の発行形態については従来からともすれば編集上の足枷となっていた。それは両誌の役割における不明確性、会報頁数の制約、会誌発行サイクルの問題点などである。そこで会報を会誌『病院図書室』へ統合して季刊化する方向で、協議会活動との関連、編集体制、経費に関して幹事会と編集部で検討を重ねた。経費以外は好結果を得るであろうとの判断からこれを一本化し、充実した定期刊行物の発行を目指すことにした。なおこれに関連して、今年度の会誌『病院図書室』発行については予算の関係から移行処置として来年度と合併して発行することにした。

研修活動では3回の定例研修会の他に、第3回名古屋研修会と新人向けの第1回勉強会を開催した。名古屋研修会では参加者は24名と減少したものの、この地区における定例研修会として定着し来年度からは東海地区の会員による運営も期待されている。勉強会は初めての試みであったが予想を上回る参加者があり、また定期的な開催も要望されるなど会員においては基礎的な内容への要求も強いことが明らかとなった。

この他、継続事業の中で統計調査については今年度から東海地区の会員が担当し、重複雑誌目録の発行と年次統計調査を実施した。これは幹事としての協議会運営への参画とともに、当地区の会員から協議会運営や事業活動について理解を得る

ためをお願いした。両側面で大きな働きがあり、東海地区での活動にも生かされるものと期待される。また、各事業部では担当幹事の他に一般会員からも事業部員として協力を得る形が定着し、多大な役割を担っている。

対外交流では今年度も日本医学図書館協会をはじめとする関連諸団体と例年通りの交流を行なった。その中で、日本医学図書館協会では病院図書室とのネットワーク形成の具体化を模索していることが窺われる。また、日本病院会からは全国図書館研究会の開催について今年度は後援への協力を要請されたが、来年度は関西での開催協力を要請されている。これまでの実績と意義を考え、これを受けていくことになった。

以上、今年度の活動を概観した。ネットワークの拡大と共に個々の会員は多様化している。協議会活動や各事業においてははきめ細かな配慮がますます必要と思われる。

I-1 各事業部報告

I-1-1. 研 修 部

〔第62回研修会〕

日時：1991年7月3日(水) 10:00～16:00

場所：住友病院 講堂

会費：会 員 1,000円

非会員 1,500円

プログラム

- 1 ① 製本雑誌に関する意識調査
千住 とも子(日生病院)
- ② 分担保存の実施に向けて
重富 久代(京都市立病院)
座長 浜口 恵子(高槻赤十字病院)
- 2 医学雑誌-編集企画から発行まで-
講師 永井 忠雄(永井書店)
- 3 脳神経外科学領域の雑誌について
講師 水川 典彦
(社会保険神戸中央病院脳神経外科部長)

参加者：28名（うち非会員1名）

〔第63回研修会〕

日時：1991年12月18日(水) 10:00～16:00
場所：淀川キリスト教病院 オリーブ棟3階講堂
会費：会員 1,000円
非会員 1,500円

プログラム

- 1 病院図書室に於ける医学関係図書・雑誌の購入方法
講師 泉谷 嗣郎（大阪赤十字病院）
- 2 〔医学の基礎知識〕
アレルギーの臨床について
講師 玉置 昭治
（淀川キリスト教病院皮膚科部長）
- 3 パソコンを使っての雑誌特集記事の活用
講師 飯田 育子（浜松赤十字病院）
—アンケート報告—
近畿病院図書室協議会会員機関におけるパソコンを使った特集記事活用状況
近畿病院図書室協議会
ネットワーク研究班

参加者：30名（うち非会員4名）

〔第64回研修会〕

日時：1992年3月23日(月) 10:00～12:00
場所：淀川キリスト教病院
会費：500円
プログラム 〔事例・研究報告会〕

- 1 CD-ROM文献検索システムの導入と利用状況
大橋 真紀子（社会保険中京病院）
- 2 大阪労災病院におけるCD-ROM文献検索の利用状況
松井 美抄枝
田中 道夫（大阪労災病院）
- 3 コンテンツ・サービスについて
山崎 捷子（淀川キリスト教病院）
- 4 松阪中央総合病院の図書室業務
森川 治美（松阪中央総合病院）
- 5 今後の病院図書室のあり方について

—図書委員会と図書館員の役割—

前田 元也（西淀病院）
座長 徳田 雅子
（大阪府立母子保健総合医療センター）

参加者：34名（うち非会員2名）

〔第3回名古屋研修会〕

日時：1991年11月28日(木) 10:30～16:00
場所：名古屋第一赤十字病院 古川講堂
第二会議室

会費：1,500円

プログラム

- 1 大学と病院間の相互貸借について
—受ける側の立場から—
講師 山本 泰雄
今村 久恵
（名古屋市立大学医学部分館）
- 2 分類と貸出について
講師 山室 真知子（京都南病院）
松本 純子（住友病院）

〔事例報告〕

- ①名古屋第一赤十字病院における分類と貸出
大平 美里
（名古屋第一赤十字病院）
- ②松阪中央総合病院の図書室業務
森川 治美
（松阪中央総合病院）

参加者：24名（うち非会員11名）

〔第1回勉強会〕

日時：1991年9月26日(木) 13:00～17:00
場所：回生看護学院
会費：500円

内容：病院図書室の基本的な業務について

—“医学資料の整理と利用”を使って

講師 山室 真知子（京都南病院）

松本 純子（住友病院）

林 伴子

（社会保険神戸中央病院）

参加者：17名（うち研修部3名）

第62・63回研修会はテーマを雑誌（定期刊行物）に絞って企画した。62回では今後協議会の相互協力活動の1つとして重要となる雑誌の分担保存の実施に向けての準備状況の報告と、それに関連して雑誌の製本について会員からのアンケートによる担当者の意識が報告された。63回では欧文雑誌を中心とした価格の見積から決定、購入に至るまでの詳細な説明と、雑誌特集記事のパソコンによる活用の実例が報告された。従来から継続してきたテーマ〔医学の基礎知識〕は最近話題になっている「アレルギー」について取り上げた。また、新しい企画として医学各専門領域における雑誌を取り上げ、第1回として脳神経外科領域の雑誌について、実際に利用している専門医の立場からの講演を受けた。担当者とは違った側面からの知識が得られるため、今後も継続して行きたい。

第64回研修会の事例・研究報告会には演題5題が提出された。昨年来、徐々に導入されつつあるCD-ROMに関する演題2題の他、日常の図書室業務からの報告である。

第3回名古屋研修会では名古屋地区からの実務に関連した企画をとの要望もあって相互貸借と分類、貸出という図書室業務では欠くことの出来ない業務について講義と事例報告を行った。今回の参加者を見てはほぼ固定してきた観がある。東海地区での会員も増加してきており、次回は地区会員による企画運営が予定されている。

勉強会は従来研修会の中で行ってきた実務に関する研修を独立させ、勤務交代や、新入会による担当者を対象に企画したものである。今回はその第1回として図書室の基本的な業務について、概論的な講義を行った。研修会では取り上げにくい各図書室での問題も参加者が自分の問題として捉え、話し合う中で解決の方向が見いだせればと考える。

〔まとめと今後の問題点〕

1. 今年度は雑誌という1つのテーマにこだわって企画したが、雑誌以外の実務からやや離れた点は否定出来ない。研修会終了後のアンケート結果にも基本的な実務実習を望む声が多く寄せられている。しかし、一方では基本的なことよりも、新しい情報の入手希望もあり、企画する上で今後も検討を重ねて行かねばならない課題である。

2. 以前より研修部の懸案事項であった新任者のための研修を勉強会の形でやっと実現できた。前述した実務に関する研修の一部は補えたと考えられる。参加者の中には、今まで研修・勉強会に参加しなかった担当者も多く、これを機会に研修会への積極的な参加を期待する。会終了後、次回開催を希望する声も有り、次年度にも継続して開催する予定である。

3. 事例・研究報告会に演題がなかなか集まらない事は以前より問題となっていたが、今年度も新たな対策を講じる事が出来なかった。前もって研究依頼を行うなど、活性化への対策を今後も検討してゆきたい。

4. 研修会の資料提供については今年度より実費提供することになった。

5. 来年度には「日本病院会全国図書室研究会」共催が予定されており、各会員の一層の協力を願いたい。

6. 名古屋研修会に関しては、入会には至らないが今後も研修会の継続を望む参加者は多い。地域の要望に沿った研修会を行うためにも来年度は東海地区会員機関による企画運営を予定している。

今年度は研修部員として、名古屋第一赤十字病院 大平美里氏、大阪府立母子保健総合医療センター 徳田雅子氏の協力を得た。

名古屋研修会では今回も名古屋第一赤十字病院に会場を提供して頂き、東海地区会員の協力が得られた。

今年度の研修会参加費は 114,000円、支出は 215,850円であった。

I-1-2. 会報会誌編集部

今年度編集部では会報18巻1号～18巻6号までを発行した。ただし、18巻5、6号は合併号とした。また、会誌「病院図書室」は次年度会報・会誌の発行形態の変更が予定されているため、今年度末の発行を中止した。

1. 会報の発行日と内容

会報18巻1号(1991/5/15, 20P)
 会長挨拶、第17回総会報告、近畿病院図書室協議会医学文献Fax基準料金表、会則、幹事会報告(平成2年度第6回、平成3年度第1回)

会報18巻2号(1991/7/12, 6P)
 巻頭言(会報・会誌編集雑感)、「医学用語あれこれ 1」、新幹事紹介、病院図書室紹介「松阪中央総合病院図書室」、シリーズ各部紹介「事務局」、幹事会報告(平成3年度第2回)、新会員紹介

会報18巻3号(1991/8/30, 6P)
 巻頭言(仲間がいるってすばらしい!/)、第62回研修会報告、1991年度日本病院会全国図書室研究会案内、第62回日本医学図書館協会総会参加報告、第8回図書館情報サービス研究大会参加記)、病院図書室紹介「日本赤十字愛知女子短期大学図書館」、シリーズ各部紹介「編集部」、幹事会報告(平成3年度第3回)

会報18巻4号(1991/11/26, 16P)
 CD-ROM特集(CD-ROM導入に向けてのガイドンス、CD-ROM導入図書室へのアンケート)、「医学用語あれこれ 2」、病院図書室紹介「大阪警察病院図書室」、近畿病院図書室協議会会員名簿、幹事会報告(平成3年度第4回)

会報18巻5/6合併号(1992/3/23, 16P)
 会報100号記念(記事3本)、名古屋研修会報告、名古屋研修会参加記(記事2本)、第63回研修会報告、「医学用語あれこれ 3」、

病院図書室紹介「更生病院図書室」、シリーズ各部紹介「医学雑誌総合目録編集委員会」、ADONIS説明会参加記、第18回総会および事例報告会案内、コンピューター勉強会案内、幹事会報告(平成3年度第5回)

2. 会報会誌発行経費

	印刷費	郵送料
会誌第11巻	339,000円	27,770円
会報第18巻1号	79,928円	10,939円
会報第18巻2号	21,630円	9,038円
会報第18巻3号	21,630円	9,038円
会報第18巻4号	57,680円	15,415円
会報第18巻5/6号	57,680円	11,423円

原稿料 25,000円、レイアウト用紙 9,000円、その他 2,505円

3. 編集体制について

今年度は新たに国立姫路病院図書室田中泉美さんを編集委員に加え、従来の委員5名(首藤、中嶋、浜口、前田、山崎)の計6名で会報の編集発行を行った。スタッフが増え、一人ずつの負担が若干軽減した。役割分担はスムーズで特に問題はない。

編集会議は今年度4回開いた。日程および場所は以下のとおりである。

- 第1回(1991/5/8, 回生看護学院で編集作業の勉強会も兼ねて)
- 第2回(1991/7/30, 大阪回生病院)
- 第3回(1991/11/21, 西淀病院)
- 第4回(1992/3/12, 淀川キリスト教病院)

4. 印刷所について

今年は会報全5号を小西印刷で作成した。

5. 総括と今後の課題

今年度の会報は概ね順調に発行することができた。しかし、会誌の発行を見送ったため、例年より時間的に余裕があったにもかかわらず、各号の発行については一部発行期日の遅れがあった。諸々の事情はあれ、発行期日はやはり守られるべき

であったと思う。一方、内容に関しては今年度よりシリーズで「各部紹介」と「医学用語あれこれ」を企画し、従来のシリーズおよび特集記事と併せて好評であった。また、今年度は編集委員の勉強会を開き、編集に関する基礎知識の修得に努めた。これらの経験が今後生かされることを期待したい。今年度の活動について、その他特筆すべきことはない。

会報会誌の発行形態および内容についてはかねてより問題になっていたが、今年度はこれらについて幹事会、編集部で解決策を検討した。その結果、従来の会報会誌を一本化した機関誌を発行する案を今総会に諮ることとなった。発行経費や編集体制についてはさらに検討が必要であり、定期的な刊行に関してもより一層の努力が必要である。

I-1-3. 統計調査部

1. 重複雑誌目録作成について

- a. 調査対象雑誌：1990年1月～12月発行の和・洋雑誌で協議会各図書室が重複して受け入れたもの
- b. 調査時期：1991年6～7月
- c. 作業経過：
 - 1991.6.25 重複雑誌調査用紙発送（協議会会員71機関）
 - 1991.7.25 回答締切日
 - 1991.9.1 重複雑誌目録発送（会員宛）
- d. 参加病院：19施設
〔内訳〕高山赤十字、社保中京、日赤愛知女子短大、大津赤十字、西陣、大阪逓信、大阪赤十字、耳原、大阪労災、南大阪、阪和記念、高槻赤十字、医真会八尾、社保神戸中央、西宮中央、島根県立中央、社保広島市民、近森、福岡徳洲会
- e. 重複雑誌タイトル数：
153誌（和雑誌65誌、洋雑誌88誌）

2. 年次統計調査の実施と報告書の作成について

- a. 調査対象機関：協議会会員73機関
- b. 調査対象期間：1990年4月～1991年3月

- c. 調査時期：1991年6～7月
- d. 調査項目：1.施設の状況 2.施設・建物 3.職員 4.図書委員会 5.蔵書 6.経費 7.整理業務 8.利用者統計 9.視聴覚資料・機器 10.図書出版物 11.所蔵二次資料
- e. 作業経過：
 - 1991.6.25 年次統計調査用紙発送
 - 1991.7.25 回答締切日
 - 1991.9～10 未回答施設に電話等で督促
 - 1992.1～2 年次統計調査集計作業および印刷
 - 1992.2.29 年次統計調査報告書発送（会員及び地域病院図書室ネットワーク6機関）
- f. 参加病院：52施設（参加率72%）
- g. 経費：8,440円（100部）

文献相互貸借件数（1991.4～1992.3）

- (1) 相互貸借サービス実施施設 42施設（81%）
" 非実施施設 10施設（19%）
- (2) 受付件数（貸し）
*2年度中にサービスをしなかった施設 14施設
 - a. 総件数 2,747件/36施設 平均76件
最大404件、最小2件
 - b. 相手施設
協議会加盟施設
36施設で延べ545施設宛にサービスをしており、1施設あたり平均15施設にサービスをしていることになる。
協議会外の施設
23施設が協議会外の施設にもサービスをしており、延べ109施設で、1施設あたり平均5施設にサービスをしていることになる。
- (3) 依頼件数（借り）
*2年度中にサービスをしなかった施設 14施設
 - a. 総件数 7,445件/38施設 平均195件
最大1,449件、最小1件

b. 依頼先別件数

依頼先	件数 (%)	平均件数
協議会加盟施設	2,452件 / 38施設 (33.0%)	64件
JMLA近畿地区加盟館	1,703件 / 38施設 (22.8%)	44件
JMLA近畿外加盟館	2,666件 / 38施設 (35.8%)	70件
海外 (BLDSC等)	34件 / 38施設 (0.4%)	0.9件
その他	509件 / 38施設 (8.0%)	16件

* このうち、現物借り4件

I-1-4. 医学雑誌総合目録編集委員会

昨年度に引き続き、編集委員5名で作業を進めた。各会員から回収したデータシートのチェックと個別誌名記入方式への変更作業が予想外に手間取っている。並行事業の分担保存については、6月の事務局会議で作業手順を検討した。目録データの入力後に、分担保存に該当する雑誌所蔵会員（雑誌別に受入開始年の古い順に5会員）に分担リストを送って可否を問い合わせ、その結果が揃った段階で最終的に選別して分担雑誌を決定することにした。分担保存雑誌には目録本体の所蔵会員名の頭に*印をコンピューターで打ち出すようプログラムを変更した。

10月には富士通の汎用コンピューターに格納されている所蔵・欠号データを、まず富士通のパソコンに移し、次にMS-DOSに、さらにdBASE IIIPLUSに落とすことができた。dBASE IIIPLUSによる目録データ入力のプログラムも完成した。11月の第4回目録編集委員会で、パソコン入力の方法について、小田中事務局長から説明を受け、NECのパソコンを使って試行した。

当初の予定より大幅に遅れているが、早急にデータのチェックを完了し、スケジュールを立て直して、夏には出版できるよう努力する。

I-2. 組織活動について

I-2-1. 幹事会

今年度の幹事は昨年度と同じく9会員で事業運営にあたり、特に今年度からは東海地区からも1名幹事に加わった。各事業活動の報告と協議が議題の中心であったが、会報と会誌『病院図書室』の発行形態の変更については数回に亘り検討を重ねた。また、来年度の全国図書室研究会の開催協力や図書館業務の共同化などについても討議した。以下、開催日と会場を挙げる。

- ① 4/11; 住友病院
- ② 6/13; 国立京都病院
- ③ 8/8; 回生看護学院
- ④ 10/3; 淀川キリスト教病院
- ⑤ 12/12; 国立京都病院
- ⑥ 2/13; 回生看護学院

I-2-2. 役員会

平成4年3月2日淀川キリスト教病院で開催し、白方会長司会の下に事務局、各事業部から今年度の事業活動を報告した。この中で特に会費と会の名称変更について論議が集中し、来年度の重要検討課題とすることにした。

次に、会則第7条に従い来年度の会長と事務局

長の選出を行なった。それぞれ白方誠弥現会長（淀川キリスト教病院院長）と小田中徹也現事務局長（国立京都病院図書室司書）が再選され、総会に諮ることになった。

I-2-3. 会員の状況

- (1) 会員数：73機関（会報18(4)'91号参照）
内訳：病院 66機関 / 教育施設 7機関
近畿地区 59機関 / 近畿外；14機関
- (2) 異動： 入会； 大阪警察病院（大阪）、松阪中央総合病院（三重）、愛知県厚生農業協同組合連合会更生病院（愛知）、日本赤十字愛知女子短期大学（愛知）
退会； なし

I-2-4. 対外交流

- (1) 日本医学図書館協会（JMLA）
第62回総会（6/14 日本歯科大学）に幹事の山室真知子氏が出席したのを始め、地区例会にも以下に示すごとく出席した。第51回地区例会（5/14 大阪市立大学）；幹事的首藤佳子氏と松井美抄枝氏出席。第52回地区例会（10/4 近畿大学）；幹事の加島民子氏と松本純子氏出席。第53回地区例会（H4/1/27 大阪大学）；事務局長の小田中徹也と幹事の前田元也氏出席。

この他にも出版物の協会会員価格での頒布案内や各種研修会の案内があり、例年通りの交流があった。JMLAでは病院図書室とのネットワーク形成の具体化に向けこれまで以上に積極的に検討を重ねている様子が総会や例会、会報などから窺われる。

(2) 日本病院会

全国図書室研究会（9/13-14 東京）の開催にあたっては後援の形で協力し、会員への案内と積極的な参加を促した。また、来年度の同会の関西での開催については従来通り協力を要請されており、これを受ける予定になっている。

(3) その他

病院図書室研究会や各地の関連団体とは出版物交換を中心に寄稿など例年通りの交流があった。また、会員の間では各種学会や研究会での発表などを行なった。（I-2-5. 学会、論文発表 参照）

I-2-5. 学会、論文発表

〔学会発表〕

- (1) 第8回図書館情報サービス研究大会（6月、米子）
小児病院図書室のネットワーク
*神奈川県立こども医療センター
○山口 文子
大阪府立母子保健総合医療センター
徳田 雅子
*埼玉県立小児医療センター 篠原 邦子
*茨城県立こども病院 須藤 尚美
*国立小児病院 山口まどか
* 非会員
- (2) 第41回日本病院学会（6月、名古屋）
医療従事者の生涯教育に対する図書室の役割
名古屋第一赤十字病院 大平 美里
笠原 廣子
- (3) 第41回日本病院学会（6月、名古屋）
病院図書室におけるCD-ROM文献検索
社保中京病院 大橋真紀子
- (4) 第41回日本病院学会（6月、名古屋）
病院図書室の情報提供サービス、期待される図書室へ
公立陶生病院 青山真奈美
- (5) 日本病院会全国図書室研究会（9月、東京）
看護婦、コメディカルスタッフの利用状況
星ヶ丘厚生年金病院 首藤 佳子
- (6) 日本病院会全国図書室研究会（9月、東京）
事務職員の利用状況
公立陶生病院 青山真奈美
- (7) 第29回日本社会保険医学会（10月、千葉）
病院図書室と生涯教育
社保広島市民病院 岡橋郁子、岡本美保子
赤木 笑人

- (8) 第29回日本社会保険医学会(10月、千葉)
 レートリプトファンの副作用情報の伝達メディアとタイムラグについて
 星ヶ丘厚生年金病院 首藤 佳子
 道下 佳子
- (9) 第29回日本社会保険医学会(10月、千葉)
 図書室へのCD-ROM文献検索導入の経験
 社保中京病院 大橋真紀子、松本弘
 若原寛行、岡地賢

〔論文執筆〕

- (1) 小田中徹也(国立京都病院)
 図書館年鑑 1992年度版 日本図書館協会
 近畿病院図書室協議会紹介
- (2) 首藤佳子(星ヶ丘厚生年金病院)
 近畿病院図書室協議会
 一病院図書室ネットワークの試み
 医学図書館 38(1):22-28, 1991
- (3) 松井美抄枝(大阪労災病院)
 大阪労災病院における新たな図書室づくり
 医学図書館 38(3):295-300, 1991
- (4) 首藤佳子(星ヶ丘厚生年金病院)
 シンポジウム「利用者多様化における図書室の役割」-看護婦、コメディカルスタッフの利用状況
 ほすびたるらいぶらりあん 16(3):35-37, 1992
- (5) 青山真奈美(公立陶生病院)
 シンポジウム「利用者多様化における図書室の役割」-事務職員の利用状況
 ほすびたるらいぶらりあん 16(3):37-39, 1992
- (6) 山口文子* (神奈川県立こども医療センター)
 徳田雅子(大阪府立母子保健総合医療センター)
 * 非会員
 小児病院図書室のネットワーク
 医学図書館 38(4):406-408, 1991

I-3. ネットワーク研究班

分担保存の在り方と方法について、総合目録の改訂作業と連携して事業化する方向で作業を進めた。内容的には昨年度の延長であったが、具体的な作業は来年度に持ち越す結果となった。

コンピューター利用については、第63回研修会で「パソコンを利用しての特集記事」のテーマに関連づけて、各会員図書室における雑誌特集記事入力とその利用状況についてアンケート調査を行い報告した。

事業を抱える中での研究班活動は困難な側面も多く、今後はテーマを絞り取組むことも考えられる。

I-4. 会員委託サービスセンター

I-4-1. BLLDセンター

平成3年度のまとめ(1991.3.1~1992.2.20)

1. クーポンの出納

前年度よりの繰越クーポン	39枚
今年度購入クーポン	20枚
今年度払出しクーポン	-10枚
<hr/>	
クーポン残り枚数	49枚

* クーポンは1991.3.29、丸善より1ブック(20枚)購入

2. 現金の出納

前年度よりの繰越金	41,240円
今年度クーポン購入費	-29,400円
今年度クーポン利用料	10,500円
<hr/>	
差引残高	22,340円

3. センターの利用状況

- (1) 利用件数 16件(うち謝絶6件)
 (2) 利用した施設 9病院

内訳:京都市南、国立大阪、府立成人病、府立母子保健、大阪厚生年金、大阪赤十字、住友、淀川キリスト教、大阪労災

I-4-2. 規格用紙サービスセンター

(1) 規格用紙の利用状況

規格用紙の種類	利用枚数	機関数	売上金額
相互貸借用往復ハガキ(ネーム入)	3,500枚	5	54,075
相互貸借用往復ハガキ(ネームなし)	300	1	4,326
逐次刊行物受入カード(A様式)	350	4	5,047
逐次刊行物受入カード(B様式)	400	3	5,768
合計	4,550枚	13機関	69,216

* 売上金額には消費税を含む。

(2) 規格用紙の受払状況

規格用紙の種類	繰越枚数	作成枚数	売上枚数	残部
相互貸借用往復ハガキ(ネーム入)	0枚	3,500	3,500	0
相互貸借用往復ハガキ(ネームなし)	450	0	300	150
逐次刊行物受入カード(A様式)	900	0	350	550
逐次刊行物受入カード(B様式)	400	0	400	0

(3) 規格用紙関係 現金の出納

収 入	金 額	支 出	金 額
前年度繰越金	- 3,671	ハガキ・カード作成費 (@14.00×3,500)	49,000
今年度売上金	69,216	消費 税	1,470
		送 料	3,670
		包装 BOX	480
合 計	65,545	合 計	54,620

来年度繰越金 10,925円

議案Ⅱ 平成3年度近畿病院図書室協議会会計報告・監査報告

(収入の部)

単位:円

費 目	予 算 額	決 算 額	差引増△減	摘 要
前年度繰越金	762,658	762,658	0	
会 費	1,135,000	1,060,000	△ 75,000	H 3 66 会員 990,000 H 2 1 会員 15,000 H元 1 会員 15,000 入会金 4 会員 40,000
事業収入	771,000	210,000	△ 561,000	
会報会誌購読会費	(99,000)	(91,500)	(△ 7,500)	H 3 28 会員 H 2 1 会員 会誌 3 会員
雑誌総合目録	(552,000)	(0)	(△552,000)	
研 修 会 費	(120,000)	(114,000)	(△ 6,000)	61～63 回研修会 初心者向勉強会 第3回名古屋研修会
そ の 他		(4,500)		会誌売上 VOL.11 3 冊
そ の 他		24,792		広告料 20,000 銀行利息 4,792
合 計	2,668,658	2,057,450	△ 611,208	

(支出の部)

単位：円

費 目	予 算 額	決 算 額	差引 増△減	摘 要
総 会 費	70,000	64,593	5,407	選挙費用、議案書作成費 特別講演謝礼
事 務 費	100,000	29,450	70,550	振込料、封筒印刷 年賀状印刷
通 信 費	70,000	36,444	33,556	事務局、各部会連絡 会員通知用通信費
交 通 費	180,000	251,220	△ 71,220	役員会、幹事会 各部会、JMLA例会・総会 名古屋研修会
事 業 費	1,980,000	906,956	1,073,044	
会報会誌発行費	(700,000)	(628,573)	(71,427)	印刷費V11,18(1)-18(4) 発送費V11,18(1)-18(4) 原稿料、レイアウト用紙
研 修 会 費	(180,000)	(215,850)	(△ 35,850)	61～63回研修会 初心者向勉強会 第3回名古屋研修会
総合目録改版	(800,000)	(0)	(800,000)	
その他の事業	(300,000)	(62,533)	(237,467)	年次統計報告H2年 42,995 年次統計報告H3年 13,552 ネットワーク研究班 5,986
資 料 費	100,000	62,624	37,376	医学洋書総合目録89-90
雑 費	168,658	12,339	156,319	JMLA総会参加費 弔電
合 計	2,668,658	1,363,626	1,305,032	

1992.2.27 現在収支残高 2,057,450 - 1,363,626 = 693,824

平成3年度 会計監査

単位：円

収 入	金 額	支 出	金 額
前年度繰越金	762,658	総 会 費	64,593
会 費	1,060,000	事 務 費	29,450
		通 信 費	36,444
事業収入	210,000	交 通 費	251,220
会報会誌購読会費	(91,500)	事 業 費	906,956
雑誌総合目録	(0)	会 報 発 行 費	(628,573)
研 修 会 費	(114,000)	研 修 会 費	(215,850)
そ の 他	(4,500)	総 合 目 録 改 版	(0)
		そ の 他 の 事 業	(62,533)
そ の 他	24,792	資 料 費	62,624
		雑 費	12,339
		次年度繰越金	693,824
合 計	2,057,450	合 計	2,057,450

上記決算については、会計監査を終了しました。

平成4年3月12日

会計監査 小 山 弘 子 ㊟
栗 谷 正 枝 ㊟

議案Ⅲ 平成4年度活動方針

来年度は、分担保存内容を掲載した「総合目録」改定版の完成を筆頭に、会報を統合した会誌『病院図書室』の季刊発行、全国図書室研究会の関西での開催協力、東海地区との協力拡大など重要な

事業が控えている。それぞれかなりの労力を要すると思われるが、多くの会員の協力を得ながら完成させたい。

医学雑誌総合目録の改訂は会員にとって火急の懸案でもあり、また分担保存も資料廃棄がすすむ会員間で一刻も早い事業化が望まれている。その協力参加については、各会員毎の保存候補リスト

を配布して協力タイトルを募る計画になっている。完成は春から夏頃を予定しているが、目録の配布に当っては既に決定しているように会員の実費負担をお願いしなければならない。

会報を会誌『病院図書室』に統合して季刊化するについて、協議会活動との関連では問題は考えられず定期行物としての編集上ではむしろ好都合な面が多いと考えられる。ただし、新しい『病院図書室』の年間総頁数を現行の両誌総頁数に準拠して発行する場合でも、経費の上乗せは避け難い。一部には長年据え置き会の会費値上げの意見もあったが、とにかく来年度は経費節減と広告費などの努力によって会誌『病院図書室』の季刊発行を計画することにした。なお、購読会費については若干の値上げも止むを得ないだろうとの判断から、経費を元に算定することにした。

日本病院会主催の全国図書室研究会については、1982年以来隔年に関西で開催し実質的な企画運営に当たっている。来年度も従来同様に協力を要請されており、これまでの実績から考えて協力していくことにしたい。なお、企画や運営においては日本病院会ともこれまで以上に緊密な連携を持ってこれに当ることが必要と思われる。

東海地区との協力拡大については今年度、3機関の入会があり一定の成果をあげた。来年度もさらに入会を勧めるために当地区の会員を中心に、協議会からも何等かの普及活動を図る。なおこれに関連し、ネットワーク拡大に伴って協議会の名称についても本格的に再検討する必要もありうると思われる。また、名古屋研修会については第4回目でもあり当地区の会員が主体となって企画、運営にあたることを考えていきたい。

この他、研修教育活動や年次統計調査も継続事業として従来通りすすめ、特に研修会では初心者向けの勉強会の継続、年次統計調査は引き続き東海地区会員と分担していく予定である。

1. 医学文献情報活動の推進
「医学雑誌総合目録」改訂版の発行、資料
分担保存の実現
2. 教育研修活動の継続
定例・名古屋研修会、勉強会の開催、全国

図書室研究会の開催協力、諸研究研修会等への案内と参加奨励

3. 出版広報活動の継続
会誌『病院図書室』の季刊発行
4. 年次統計等の調査活動
年次統計と相互貸借の調査、重複雑誌目録の作成
5. 研究活動の継続
ネットワーク研究班のうち特に分担保存の
在り方と方法、研究や事例発表への助成金
制度
6. 協力活動の地域的拡大
東海地区への協力活動参加への働きかけ、
名古屋研修会の開催

議案Ⅳ 平成4年度事業計画

1. 「医学雑誌総合目録」(外国、国内誌)改訂版の発行
2. 研修会の開催(定例3回うち1回は全国図書室研究会、名古屋1回、勉強会数回)
3. 会誌『病院図書室』第12巻1-4号'91-'92年の発行
4. 年次統計等の調査、及び重複雑誌目録の作成
5. 分担保存の「医学雑誌総合目録」掲載による事業化
6. 東海地区病院図書室への入会促進活動

議案Ⅴ 平成4年度予算

別掲の通り

平成4年度 予 算

(収入の部)

単位:円 (支出の部)

単位:円

費 目	金 額	費 目	金 額	摘 要
前年度繰越金	693,824	総 会 費	70,000	総会議案書作成費、送料 特別講演謝礼、選挙費用
会 費	1,270,000	事 務 費	50,000	封筒印刷代、事務用品、 文書複写代、年賀状印刷代
平成4年度	@15,000×73	通 信 費	50,000	事務通信費
平成3年度未納	@15,000×7	交 通 費	250,000	幹事会、各部会、JMLA例会 役員会、他参加交通費
平成2年度未納	@15,000×4	事 業 費	2,120,000	
入会金未納	@10,000×1	会報会誌発行費	(870,000)	会誌4号(12巻1~4) 会報18巻5-6合併号 印刷発送費、原稿料等
事業収入	819,500	研 修 会 費	(150,000)	研修会資料費、案内発送費 講師謝礼、事例報告助成金
会報会誌購読会費	(138,000)	総 合 目 録 改 版	(800,000)	雑誌総合目録改訂和・欧文
平成4年度	@4,000×33	そ の 他 の 事 業	(300,000)	重複雑誌目録作成費 年次統計調査費
平成3年度未納	@3,000×2	資 料 費	100,000	医学洋書総合目録 他 協議会図書購入費
雑誌総合目録	(584,000)	雑 費	143,324	慶弔費、接待費 他
改訂版(和欣)	@8,000×73			
研 修 会 費	(97,500)			
第64回事例報告	@500×30×1			
第66回研修会	@1,000×30×1			
名古屋研修会	@1,500×30×1			
初心者勉強会	@500×15×1			
合 計	2,783,324	合 計	2,783,324	

議案Ⅵ 役員改選

選挙委員により平成4年度の役員選挙が行われ、幹事9名および会計監査2名が選出された。新役員とその役割分担は下記の通りである。

◎幹事

事務局

総務 松井美抄枝 (大阪労災病院)

会計 加島 民子 (大阪回生病院)

研修部

松本 純子 (住友病院)

山室真知子 (京都南病院)

徳田 雅子 (大阪府立母子保健

総合医療センター)

編集部

首藤 佳子

(星ヶ丘厚生年金病院)

前田 元也 (西淀病院)

山崎 捷子

(淀川キリスト教病院)

統計調査部 笠原 廣子

(名古屋第一赤十字病院)

◎会計監査 内海 紀子 (東大阪生協病院)

大久保 緑 (宇治徳洲会病院)

◎選挙管理委員 大橋真紀子 (社会保険中京病院)

山口 佐保 (大阪厚生年金病院)

七浦 紀子 (大津赤十字病院)

議案Ⅶ 会長・事務局長承認

会長には白方誠彌氏 (淀川キリスト教病院院長)
事務局長には小田中徹也氏 (国立京都病院司書)
が承認された。

以上をもって第18回総会を閉会した。

